

研究授業通信

古枝小学校

研究主任 松林 諒

令和四年度 7月25日

これまでの成果と課題をふまえて

これまで4本の研究授業を行いました。事後検討会で先生方から出していただいたご意見をもとに、授業者の先生方に成果と課題をまとめていただきました。お忙しい中ありがとうございました。それぞれの共通する部分を見ていくと、これまでの古枝小学校の研究の成果とこれからの課題が見えてきました。それらを踏まえて、これからの校内研究の進め方（体育の授業の取り組み方）について夏休みの間に共通理解を図り、夏休み明けからの日々の授業、研究授業で生かしていきたいと思えます。

『学習カード』

- 学びの足跡がわかるように、ポートフォリオ形式で、一つの単元で一枚の学習カードを使用し、めあて→ふり返り→めあてのつながりを意識できるようにする。
- 形態図や技の系統表を1人1人配布し、達成状況の把握（できた技にシールを貼る）や運動に対する気付き（全体で掲示物に付箋を貼らせていたもの）を個人でも行えるようにする。
- 一時間の自己評価を行えるようにする（チャート等）。

『めあて・ふり返り』

- 「僕は今日の体育では〇〇を頑張ります」と言えるように、めあてを立てさせる。その際、〇〇の部分をもより明確にするために、単元を通して獲得した知識が言語化されるような学級の取り組みを仕組んでいくと子ども達のめあてやふり返りの書きぶりが変わってきます。例えば、授業の最後のふり返りの時間に気付きを共有する時間を設定する、授業の途中で児童の活動を取り上げコツや視点を共有する、授業のはじめに児童のふり返りを紹介するなどが考えられます。そうすることでめあてやふり返りの書きぶりが変わってきます。

レベル1 情意的なめあて→マツトをいっぱい楽しみたい

レベル2 具体的なめあて→開脚前転ができるようになりたい

レベル3 課題のあるめあて→勢いを付けて、開脚前転ができるようになりたい

レベル4 課題解決の方法のあるめあて→回る時にへそを見ることで勢いを付け、開脚前転ができるようになりたい

発達段階に応じてレベルアップを目指していきましょう。

- ふり返りの視点を児童に与えておくことで、次時の活動につながるふり返りが書けるようにする。

視点1：めあてが達成できたか（成果）

視点2：何ができなかったか・難しかったか（課題）

視点3：どうしたらできそうか・コツ（課題解決の方法）

以上の3つの視点を中心として、ふり返りを書かせるようにしましょう。

『教材・教具』

- 児童の実態に合わせて単元構成を行い、場の設定やルールを決める。(実態に合わせて変更可)
- 児童の必要感に応じて、教材・教具を提示する。提示のタイミングがポイントです！児童の活動の見取り（個別に見る・全体を俯瞰して見る）やふり返りをもとに提示するようにしましょう。

授業参観の仕方・事後検討会の仕方について

授業参観の仕方と事後検討会の仕方について、先生方にたくさんのご意見をいただきました。ありがとうございました。その中から、本年度すぐにでも取り組めそうなものについて、次回の吉本先生の5年生「跳び箱運動」の授業から、取り入れたいと思います。

授業参観の仕方について

- 授業者は一人一人のめあてを一覧にして、当日までに配布する。当日は児童にガムテープで作った名札を付けて活動をさせる。参観者は、児童の活動とめあてを照らし合わせながら、児童の活動を観察する。
- 参観者は、児童への指導を行わないようにする。

事後検討会の仕方について

- グループ協議では、成果と課題を出し合った後、『改善策』まで考えて発表できるようにする。
 - ①成果はほどほどに
 - ②グループ協議で中心となった話題（課題）について、改善策を踏まえて発表をする
 - ③疑問点や質問等あれば、講師の先生に助言をいただく
- 事前に講師の先生に話していただきたい内容を研究主任の方から職員に募集する。その内容を踏まえた話をしていただけるようにする。

次回の校内研究は、**8月24日（水）**です。授業協力者の藤井先生と指導主事の加藤先生に、これまでの古枝小学校の研究を踏まえて、公開授業に向けたご助言をいただく時間を設定しています。普段の体育の授業の中で悩まれていることなどにもお答えいただけると思いますので、この機会に是非！